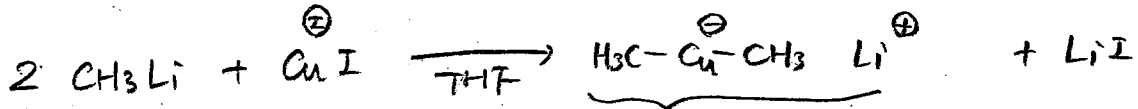


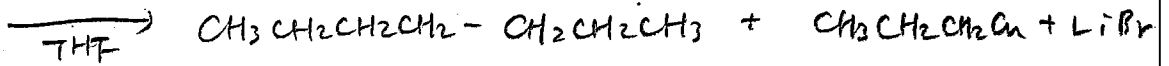


Gilman 反応剤



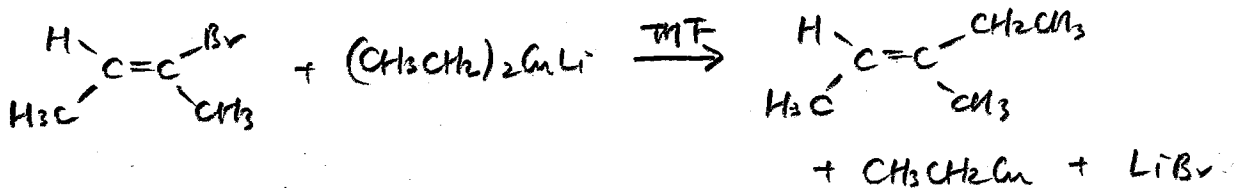
リチウム塩


令極小値の2 RLiよりも塩基性(性) (C 2.5, Li 1.0, Cu 1.8)

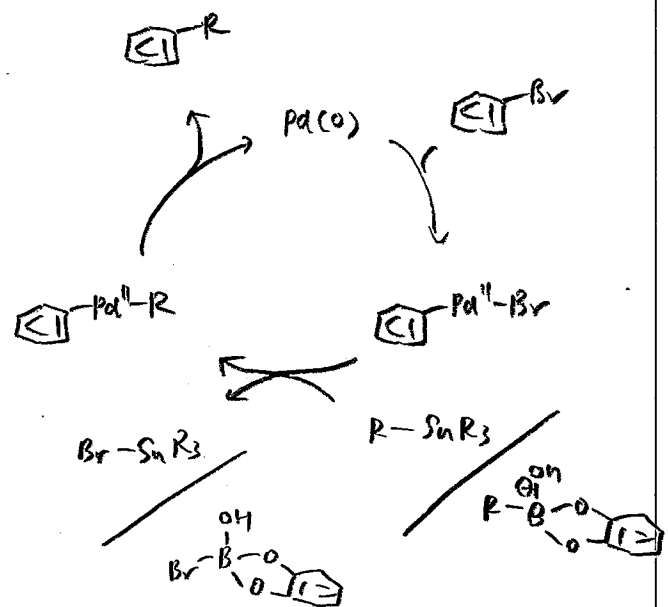
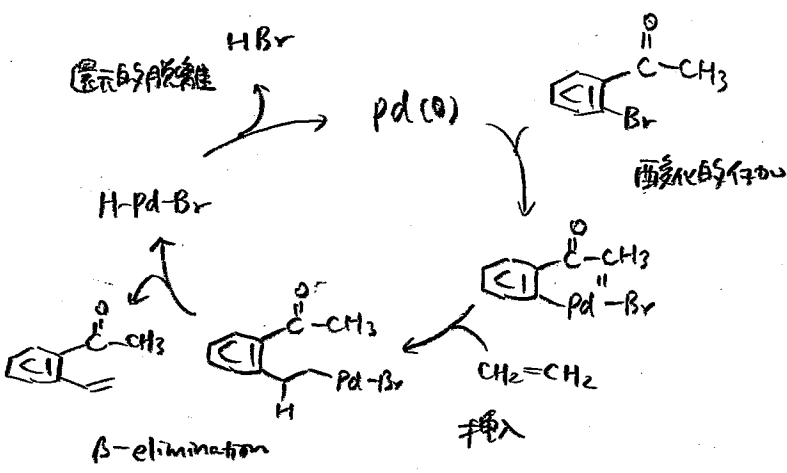


反応機構 → ラジカル機構 (詳細は不明)

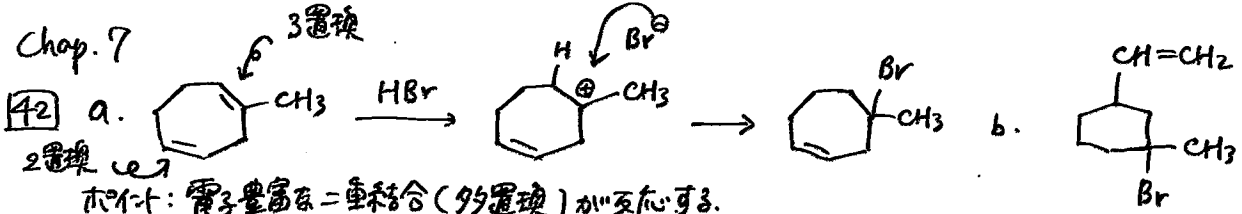
SN2反応で合成したSn化合物も1分子で2分子



- Heck 反応 PdLi⁺ + 
- Stille 反応 R-Sn + ,
- Suzuki 反応 R-B + ,



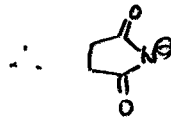
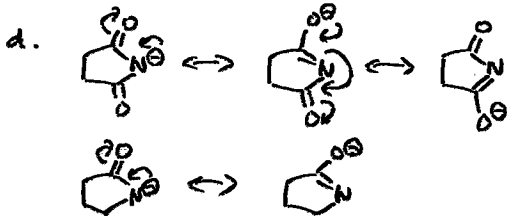
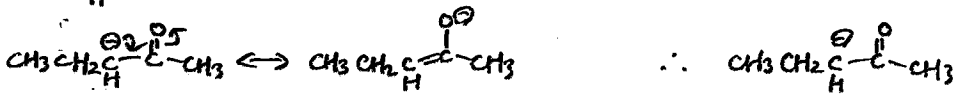
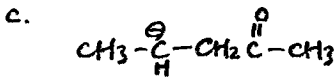
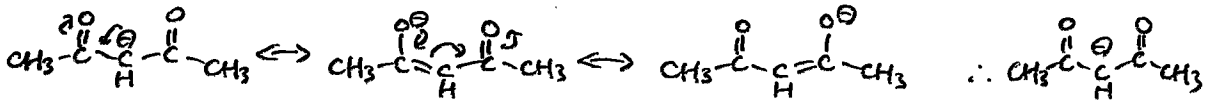
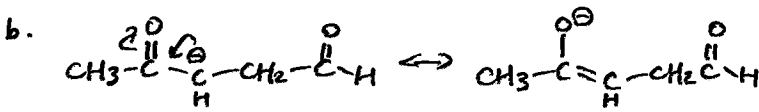
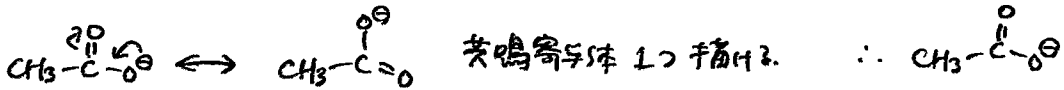
Chap. 7



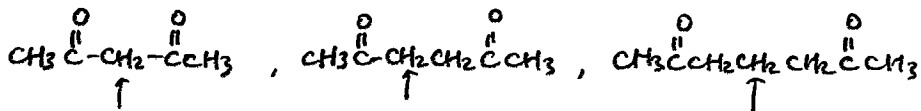
ポイント: 電子豊富な二重結合(多置換)が反応する。
より安定な加成中間体を生成する様にH⁺と反応する。

55 非同在化により、電荷を分散させる化学種がより安定。
より多くの共鳴寄与体が描けるものを選ぶ。

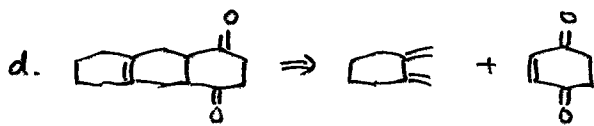
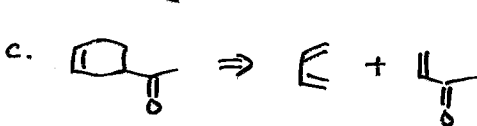
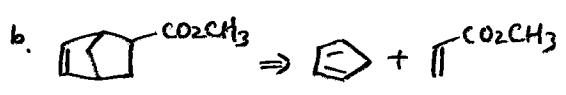
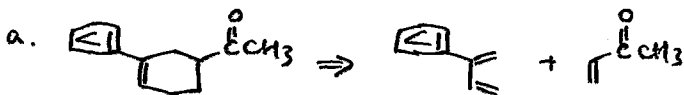
a. $\text{H}-\overset{\ominus}{\text{C}}=\text{CH}_2 \text{O}^\ominus$ 共鳴寄与体 0



58 上と同じ理由で

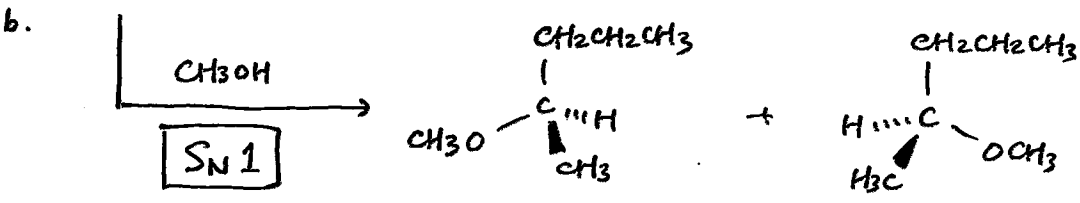
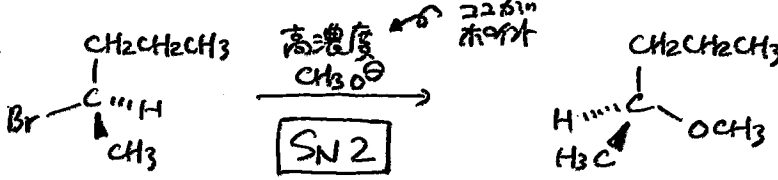


61 Diels-Alder反応 ... の構造を見たり。

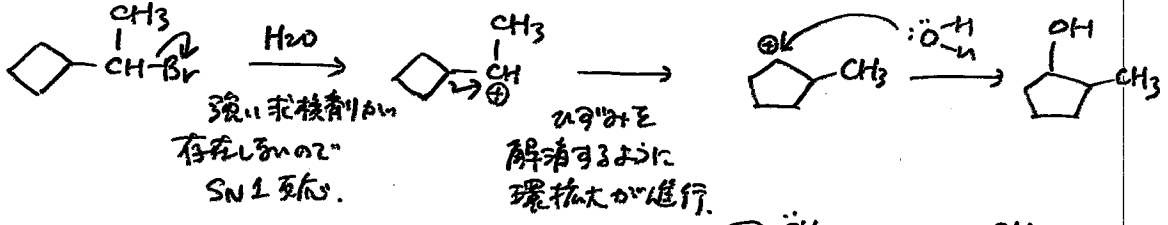


* 毛考で54861
ジエノフィルは
電子吸引基置換基を
有するものか。直に
反応性を示す。
従って上の方がbetter.

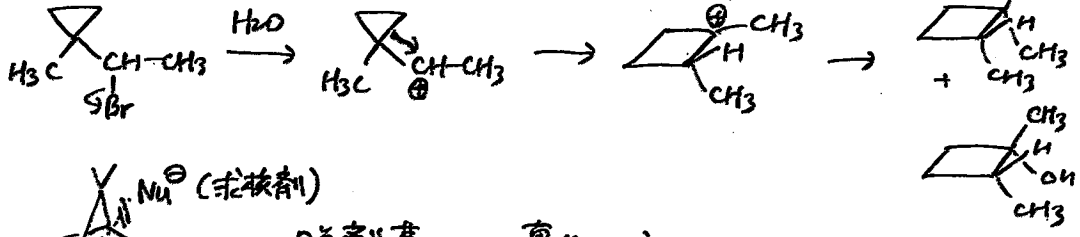
Chap. 8 42 a.



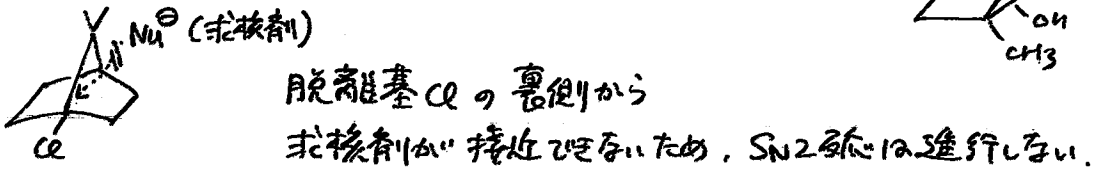
58 a.



b.

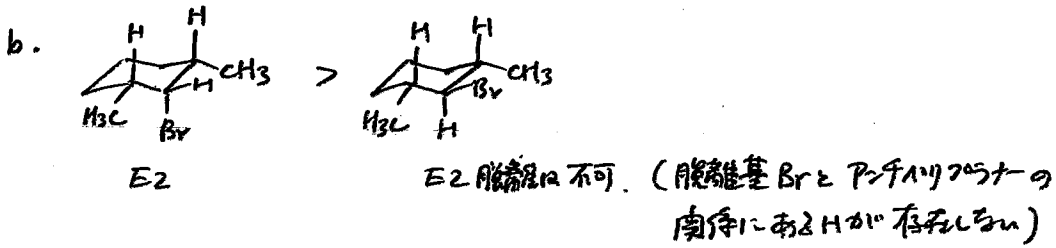


61



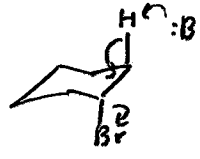
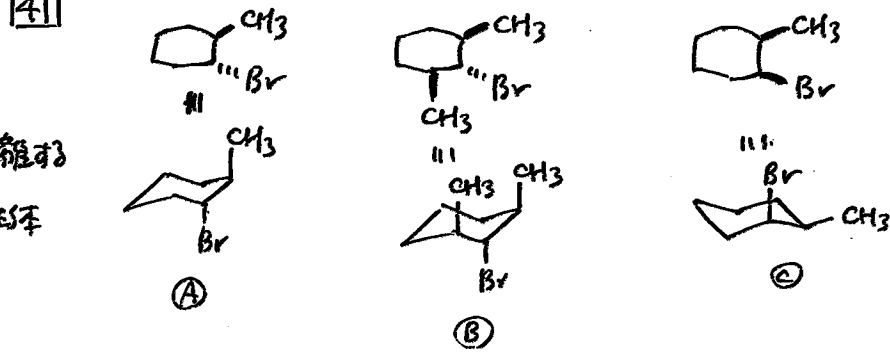
Chap. 9 36

a. $+ \text{Cl} < + \text{Br}$ Br^- の方が I^- より安定 $\equiv \text{Cl}^-$ より脱離能が良い。

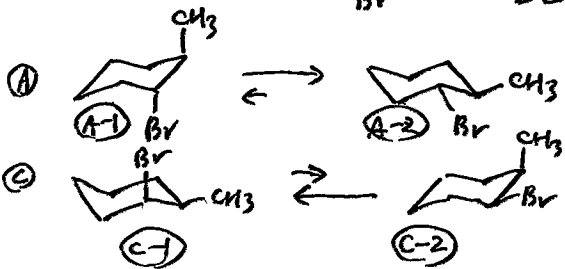


41

Br が脱離する
 配座異性体
 \downarrow
 Br と β -H が
 対置位置に
 存在する
 シオキサンを補う。



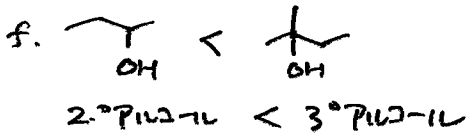
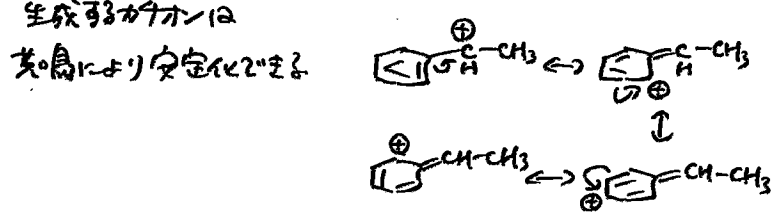
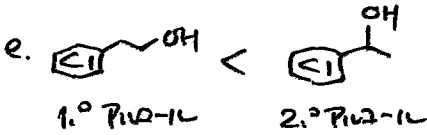
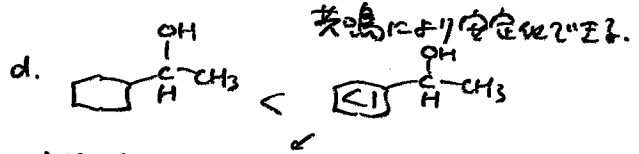
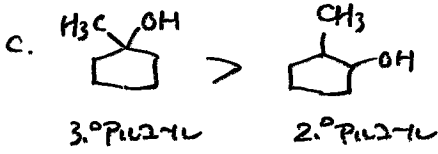
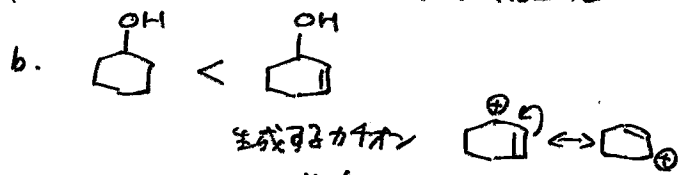
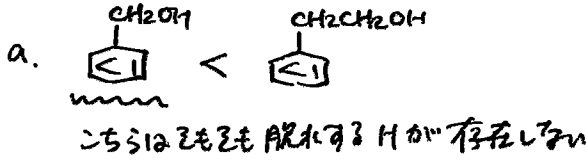
Br がない
 (B) は既に β -H が存在する
 E2 反応は起らない。



(A), (C) の場合は、メチル基が対置位置に占められ、 β -H と対置位置に存在する。この配座 (A-1) / (C-2) が不安定になり、存在数が少なくなる。
 従って、Br が対置位置に占められた配座 (C) がより速く E2 反応を起こす。

基本的にE1.

44 酸性条件下の脱水. カルボカチオン経路: $3^\circ \text{アルコール} > 2^\circ \text{アルコール} > 1^\circ \text{アルコール}$



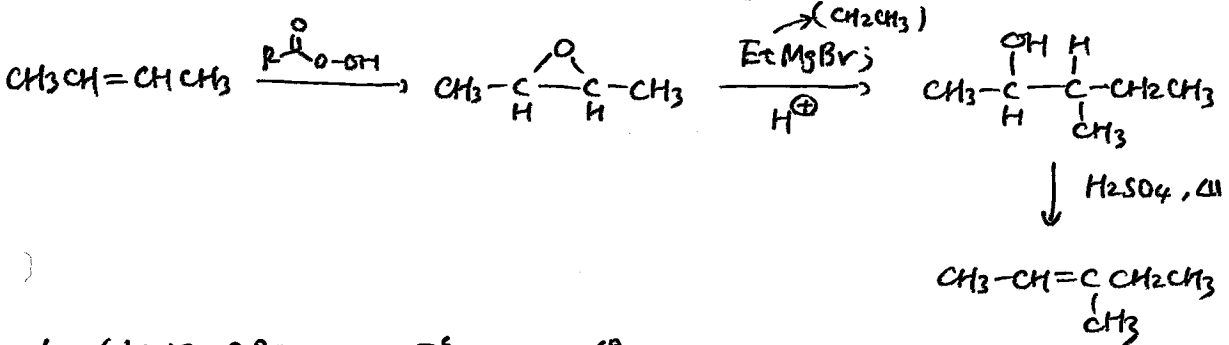
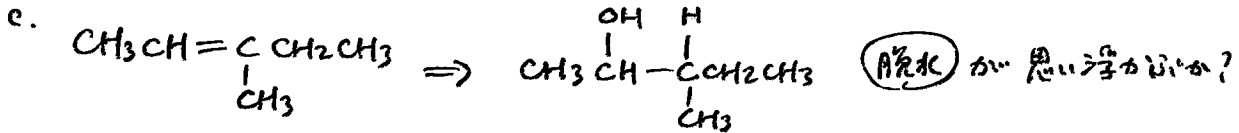
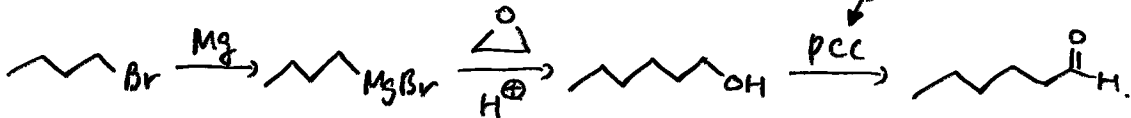
45 a. カルボキ酸はアルコールの酸化により得られる.



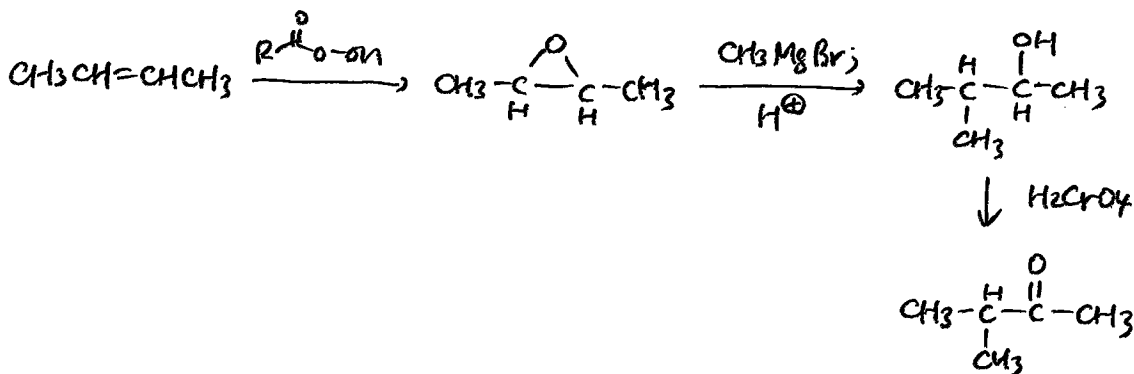
b. アルデヒドはアルコールの酸化により得られる

C1CO1 は 2炭素増成したアルコールの合成に有用.

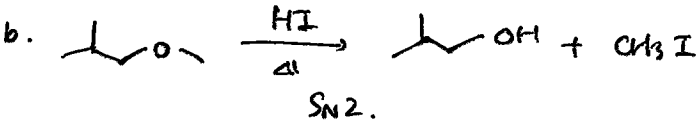
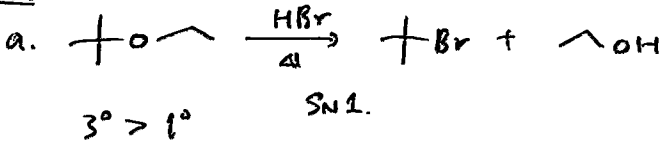
無水条件下ではX!



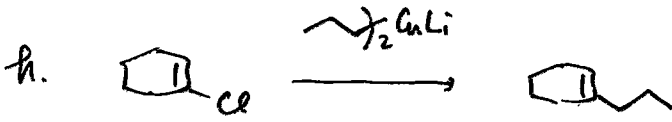
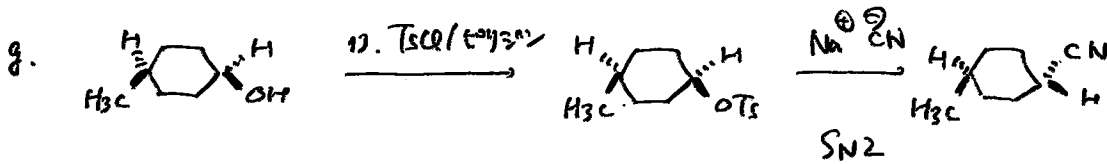
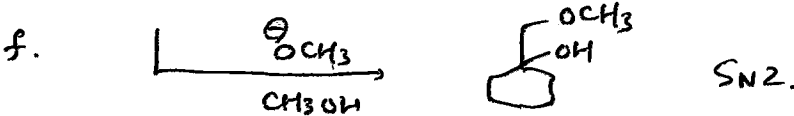
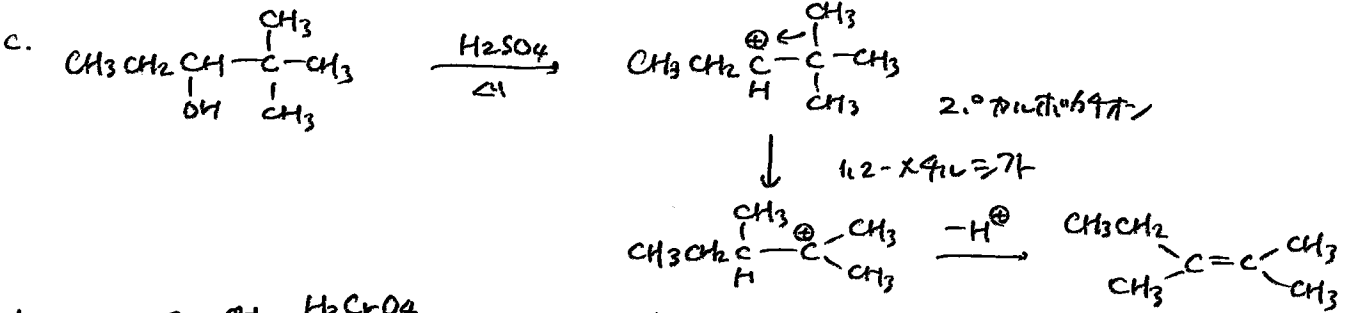
d. 外には 2°アルコール の酸化により得られる.



49



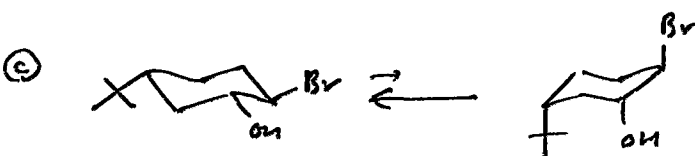
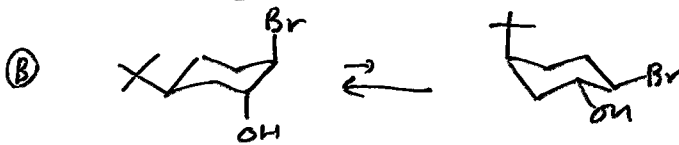
10.7 参考問題の2と



73 1,2-シフトが進行する場合は O^+ と Br が Δ の関係で置換反応は進まず
 \Rightarrow A は シン体なので 置換反応は進行しない.



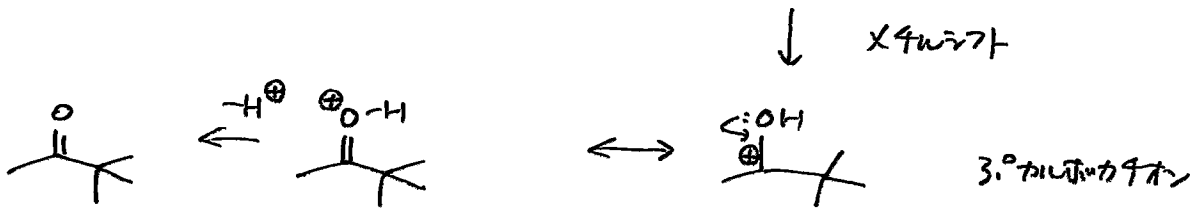
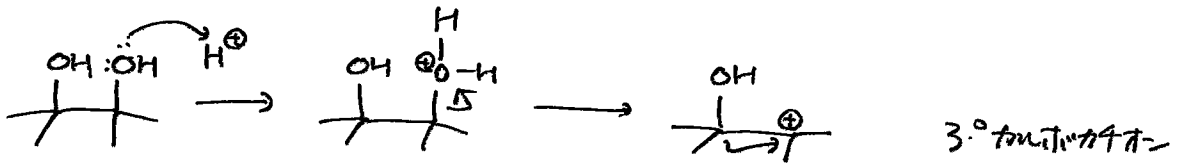
* CC(C)(C)OC >> CC(C)(C)O + CO = t-ブチル基はかさ高いので、2°PHI反応で
 5つの配座が互換的に有利.



Chap. 9. 41 と同様にとり

B > C

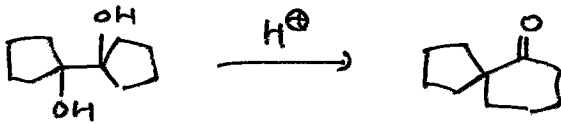
76



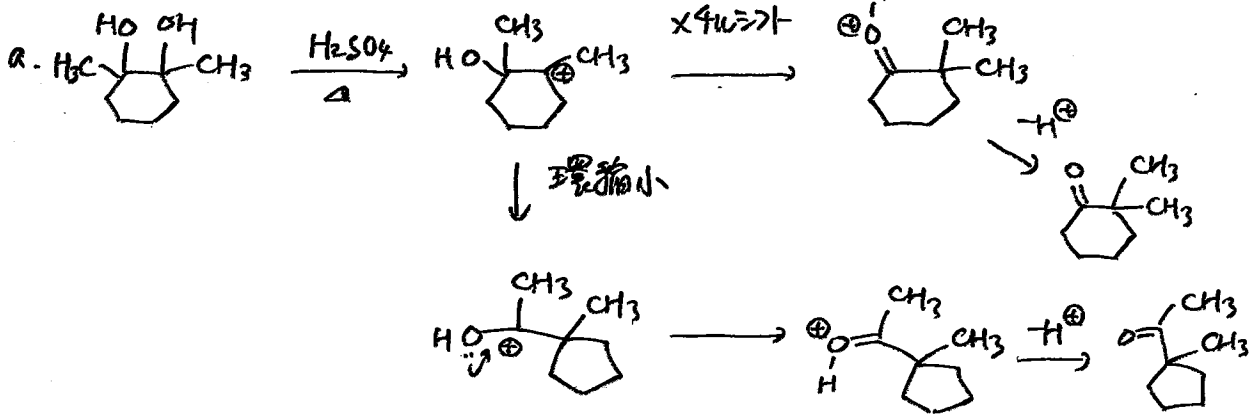
×4ウシガ 起る。より安定なカチオンを生成。
 (この反応は進行する driving force)

78

76. と同様の機構で反応が進行する。



80



b.

